

〈売主・販売代理〉  三井不動産レジデンシャル  
MITSUI FUDOSAN RESIDENTIAL

〈売主・設計・施工〉  清水建設



GRAND  
MARINA  
TOKYO

“SHOPS & RESIDENCE”

QUALITY BOOK

PARK TOWER KACHIDOKI MID

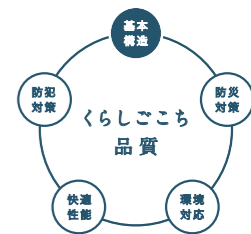


パークタワー勝どきミッド



※掲載の完成予想CGは、計画段階の図面を基に描き起したもので、形状・色等は実際とは異なります。なお、形状の細部、設備機器等は表現しておりません。南東側河岸に駐着場が設置される予定です。位置、機能、意匠、完成時期等については未定です。入居は2023年8月完成予定。完成時期は今後変更になる場合がございます。表現されている植栽は初期の生育期間を経た状態のものを想定して描いており、竣工時は植物の生育を見込んで必要な間隔をとって植えております。施工上の都合により、設定位置・植高・本数等変更となる場合があります。周辺の建物等については一部簡略化しており、実際とは異なります。※本物件の土地の一部は、歩道状空地、広場状空地および貫通通路となっており、居住者以外の第三者が通行することになります。※敷地内および建物内には、店舗、公共施設等の看板等が設置されます。（設置場所、形状等は未定）





## 地震に強い建物を造る

すまいの品質とは、住み始めてからわかる

「くらしごこち」のよさです。

わたしたちが考える「すまい」とは、「くらしごこち」という価値を生む場所のことです。

そのために、設計会社、施工会社、管理会社と協力しながら、

「くらしごこち」のベースとなる高品質なマンションをご提供します。

安全性や快適性は、長年の経験とノウハウをもとに常に高い性能を追求。

住み始めてから実感できる「くらしごこち」のために、お客様の声に真摯に耳を傾け、

より良いすまいの実現を目指し続けます。

## CONTENTS

CHAPTER 1	地震に強い建物を造る	04
CHAPTER 2	設備や準備で災害に備える	06
CHAPTER 3	スマートな暮らしを総合的に考える	09
CHAPTER 4	心地よく暮らせる居住性に配慮する	10
CHAPTER 5	くらしを守る安全対策を講じる	12

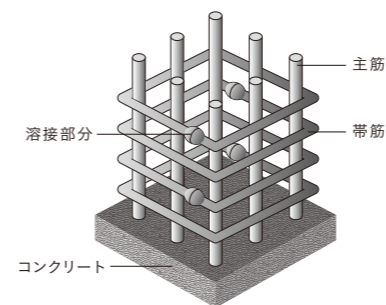
### 建築基準法の考え方

地震の多い日本の建築基準法は世界的に見ても非常にレベルの高いものです。基本になっているのは、中小規模の地震に対して建物の損傷を防止するとともに、数百年に1度の確率で起こる大規模な地震に対して、ひび割れ等の損傷は受けても建物を崩壊させず、人命を保護するという考え方です。

### 溶接閉鎖型せん断補強筋

建物下層部地下1階～29階の主要な柱の帯筋<sup>※</sup>に継ぎ目を溶接した、溶接閉鎖型のせん断補強筋を採用。現場加工の帯筋よりも、せん断力や圧縮力に対して、ねばり強く抵抗します。

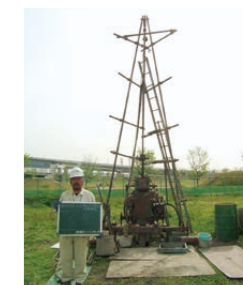
※帯筋とは：鉄筋コンクリート柱の主筋を一定の間隔で水平方向に巻く鉄筋。  
せん断補強の役割のほか鉄筋のほらみ防止の役割を果たす鉄筋で、フープともいいます。  
\*免震上部梁との仕口部除く



溶接閉鎖型せん断補強筋概念図

### 地盤調査

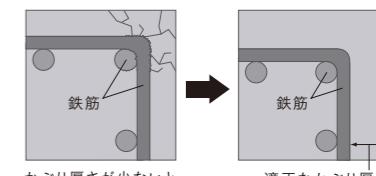
確かな強さを備えた地盤、建物の荷重をしっかりと地盤に伝える基礎があって初めて、建物はその強度を発揮します。当マンションは事前に、敷地調査とボーリング調査、標準貫入試験などの地盤調査を実施しています。



ボーリング調査(参考写真)

### 鉄筋コンクリートのかぶり厚さ

コンクリートの中性化が極度に進むと、コンクリートの中の鉄筋は錆びやすくなります。鉄筋が錆びると膨張し、コンクリートの破損の原因になります。これを防ぐために、鉄筋を包むコンクリートの厚さ「かぶり厚さ」を適切に確保します。



かぶり厚さが少ないと鉄筋が錆びやすい

適正なかぶり厚さ

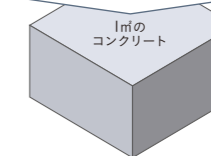
かぶり厚さ概念図

### コンクリートの品質

コンクリート耐久設計基準強度(構造物および部材の供用期間に応じた耐久性を確保するために必要とする圧縮強度<sup>※1</sup>)の概念を導入し、柱、梁といった構造躯体については設計基準強度を36N/mm<sup>2</sup>以上とし、一部には最大120N/mm<sup>2</sup>の高強度コンクリート<sup>※3</sup>を採用しています。

※1 圧縮強度とは：圧縮荷重によって試料が破壊する時の最大応力のこと。(応力：物体に外力が加わる際、その物体内部に生ずる抵抗力)  
※2 36N/mm<sup>2</sup>とは、1mあたり約3,600トンの圧縮に耐えられる強度を意味しています。  
※3 36N/mm<sup>2</sup>の高強度コンクリートは杭、基礎および全階の柱、梁、床に採用しています。120N/mm<sup>2</sup>の高強度コンクリートは一部の柱のみ採用しています。  
\*杭、工作物および外構部分のコンクリートを除く、建物本体部分の柱・梁・スラブといった構造躯体のみ。

約3,600t～12,000t



36N/mm<sup>2</sup>～120N/mm<sup>2</sup>

コンクリート強度概念図

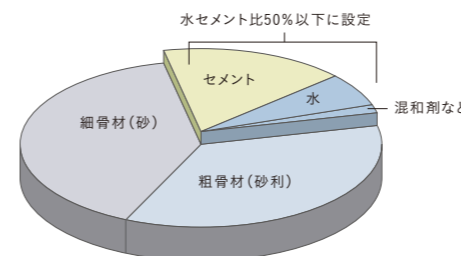
### 水セメント比50%以下

コンクリートは水(混和剤<sup>※1</sup>含む)の比率が少ないほど耐久性を高めることができるため、水セメント比を50%以下に設定しています。

\*コンクリートの性質上、乾燥収縮や温度変化による伸縮に伴うひび割れが発生する場合があります(一般的に構造上の問題はありません)。

\*杭、工作物および外構部分のコンクリートを除く、建物本体部分の柱・梁・スラブ<sup>※2</sup>といった構造躯体のみ。  
※1 混和剤とは：ワーカビリティ(作業のしやすさ)改善や強度・耐久性の向上、凝結速度の調整などを目的としてコンクリートに混和される薬剤の総称。

※2 スラブとは：床構造をつくり、面で垂直な荷重を支える板のことです。



コンクリートの水セメント比概念図

### 劣化対策等級3

《設計住宅性能評価》の「劣化対策」において、最高等級の等級3を取得しています。鉄筋の錆対策など、住宅を長持ちさせるための対策の程度を示す等級。「等級3」は3世代(75年～90年程度)まで大規模な改修工事を必要としない対策が講じられていることを表します。

## 地震に強い建物を造る

### 基礎免震構造

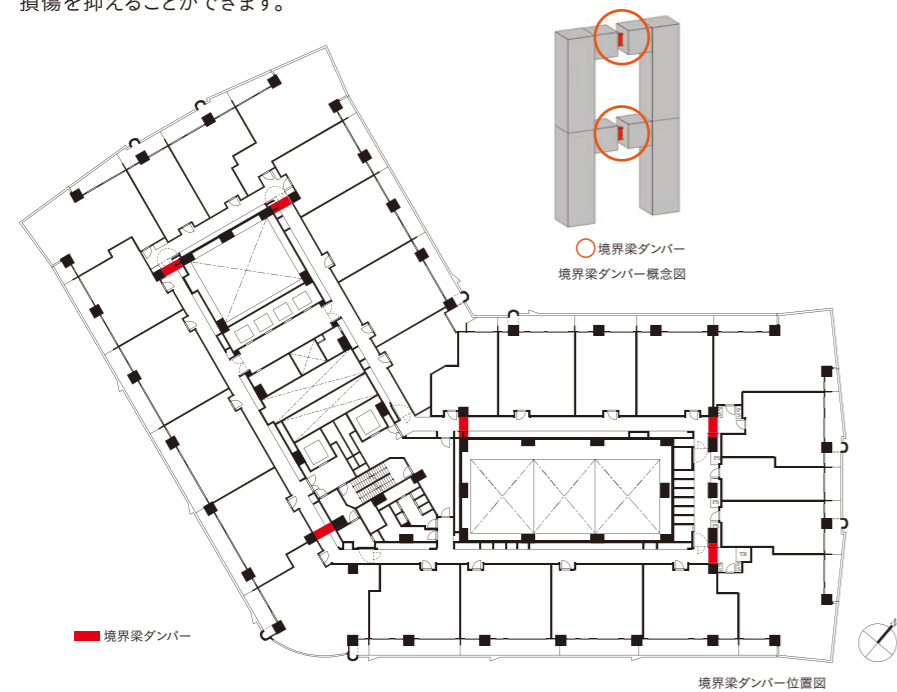
当マンションでは、地下1階下部と基礎との間に免震装置を設置した基礎免震構造を採用しています。天然ゴムを使用した天然ゴム系積層ゴムや、鉛プラグ入り積層ゴム、弾性すべり支承等を建物の基礎と上部建物の間に効果的に配置することにより、地震などの揺れを吸収・分散し、激しい横揺れを低減します。

\*低層階の一部および建物周辺の構築物、外構・植栽、ビッド内の配管等については、免震構造となっております。

免震装置に使用されている鉛プラグは、各種試験において減衰材料として優れた特性と耐久性のあることが証明されています。また使用している天然ゴムは、引張り強さ・硬さ・経年変化等各種試験により、十分な耐久信頼性が確認されています。

### 境界梁ダンパー

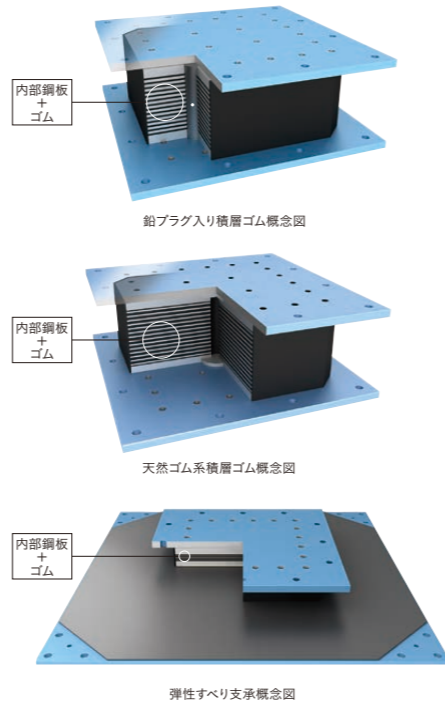
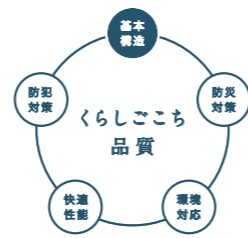
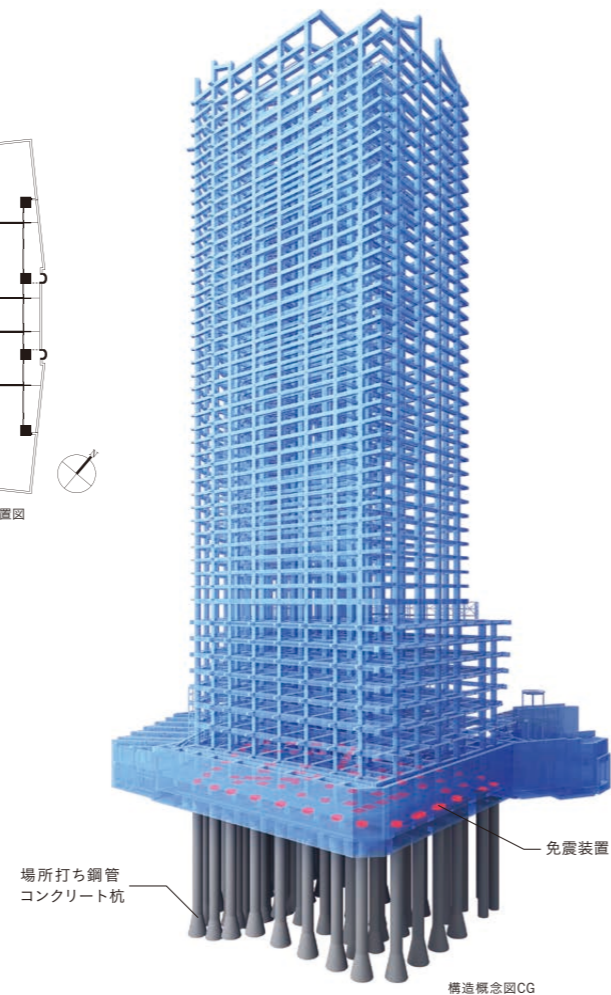
地上建物部分に境界梁ダンパーを用いることにより、柱や梁といった構造躯体の損傷を抑えることができます。



### 基礎の構造 (場所打ちコンクリート杭)

基礎は建物の荷重を直接受け支え、支持層に伝達する最下部の構造体。当マンションでは、鉄筋コンクリート造の杭を現場でつくる場所打ちコンクリート杭(80本・直径約2.5m・杭先端深さ約40m~47m)により、地下約33m以深の支持地盤に伝えています。さらに、一部の杭<sup>\*</sup>の先端を拡げ、支持地盤に対する接地面積を広めることで力強い支持力が得られる拡底杭および杭頭部に鋼管を設置し耐震性を向上させた鋼管コンクリート杭を採用しています。

\*場所打ちコンクリート杭80本のうち拡底杭は67本、鋼管コンクリート杭は66本となります。

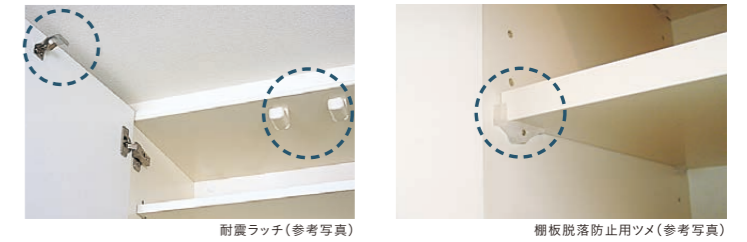


## 設備や準備で災害に備える

### キッチン吊戸棚耐震ラッチ・棚板脱落防止用ツメ

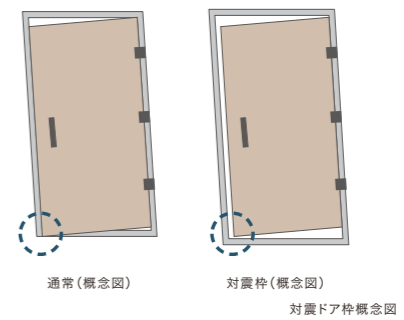
地震の揺れで扉が開いて、中のものが飛び出さないよう、キッチンの吊戸棚の扉に耐震ラッチ<sup>\*</sup>を設置。またキッチン吊戸棚の棚板には、水平方向の大きな揺れにも動きにくく、棚をしっかりと固定する脱落防止用のツメを設けています。

\*耐震ラッチは地震の揺れ方や、揺れの伝わり方によって機能しない場合があります。



### 対震ドア枠

地震によって玄関扉の枠が変形しても扉が開くよう、扉の戸先と上下枠の間に十分なスペースを確保。水平・垂直どちらの力が加わっても、扉が開くよう配慮しています。



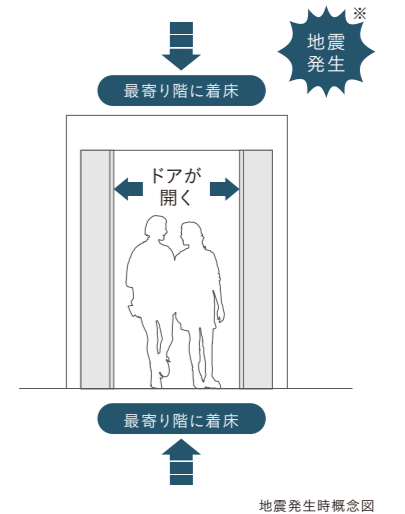
### 管制運転付エレベーター

エレベーターには地震管制装置と火災管制装置を装備。停電時には専用バッテリー電源により非常運転を行います。さらに天井の停電灯が点灯するとともに、停電時でも作動するインターホンで外部と連絡をとることができます。

#### 最寄り階、避難階までの走行機能

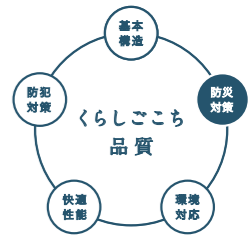
- 《地震発生》 → 最寄り階に着床 → ドアが開く → 避難
- 《火災発生》 → 進行方向に関係なく避難階まで直行 → ドアが開く → 避難
- 《停電》 → エレベーター停止 → 再起動し、最寄り階に着床 → ドアが開く → 避難

\*エレベーターの走行に支障があると感知した場合は、非常停止します。安全上ドアが開かない場合があります。

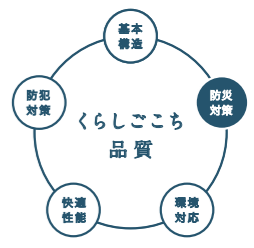


### 安全に配慮した共用部ガラス

エントランスホールには、衝撃に強く割れにくい合わせガラスまたは強化ガラスを採用しています。万一割れても、合わせガラスは破片が飛びにくく、強化ガラスは破片の角が鋭利にならないので、大きなケガが少なくなります。







## 設備や準備で災害に備える

### 非常用発電設備

災害時に停電になった際は非常用発電機が作動し、共用部の保安照明、災害防災拠点の電気設備などへ電力を供給します。非常用発電設備の備蓄燃料は法定量以上を確保します。



非常用発電機(参考写真)

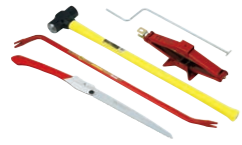
### 非常用水貯留槽

災害時でも1階～7階の店舗・オフィス用トイレ・マンホールトイレが利用できるよう、排水用に使用できる水を貯水できる非常用水貯留槽を設けています。

\*内外部のインフラ状況等により使用できない場合があります。

### 防災倉庫

防災備品を収納した防災倉庫を、8階～45階に設置しています。この防災備品は共助に必要な備品を中心に取り揃えています。



▶救助工具セット



▶圧縮毛布



▶カセットガス発電機



▶組立式トイレ



▶組立式トイレ用テント

主な防災備品の一例  
\*写真は全て参考写真です。

### 災害対策拠点

8階ラウンジを災害対策拠点として設定しています。ここは、お住まいの皆様が集合して、共助活動を行うための場所となります。拠点運営に必要な備品等を収納した、防災倉庫を設けています。

### 防災訓練・防災イベント

管理会社では、防災イベントや訓練の実施サポートを行っています。いざという時に落ち着いて行動するための重要な取り組みになります。また震災マニュアルの作成補助や防災対策関連の情報を提供します。

### 火災発生時の警報

キッチン、居室等に火災感知器またはスプリンクラーを設置。火災を感知すると、リビング・ダイニングのカラーモニター付インターホン(住宅情報盤)と玄関ドアホンが報知鳴動します。防災センターに火災発生住戸ナンバーを表示すると同時に、警備会社と管理会社コールセンターへ通報します。数分後、出火階と直上階住戸のカラーモニター付インターホン(住宅情報盤)が鳴動します。



火災感知器(参考写真)

火災警報概念図

### 避難経路

火や煙で玄関からの避難が難しい時は、自住戸のバルコニーから避難階へ避難できるよう法令に基づき、バルコニーに避難ハッチ\*を備えています。

\*避難器具の設置箇所は図面集をご参照ください。

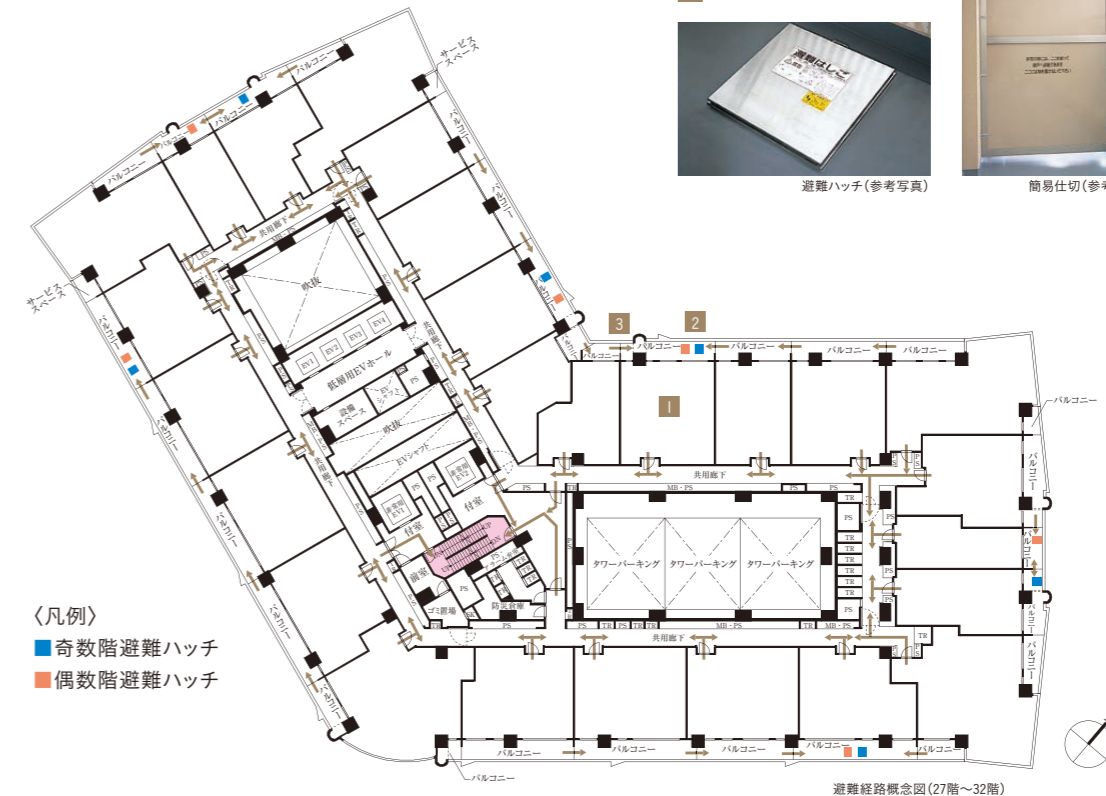
- 1 二方向への避難が可能
- 2 避難ハッチ
- 3 簡易仕切



避難ハッチ(参考写真)

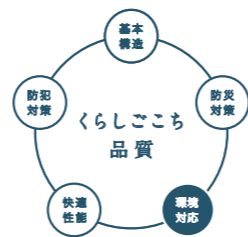


簡易仕切(参考写真)



避難経路概念図(27階～32階)

## スマートな暮らしを総合的に考える



### LED照明

従来の白熱灯と比べ、消費電力量が少ないためCO<sub>2</sub>排出量を削減し、寿命も長持ちします。



LED照明(参考写真)

### エネルックリモコン

給湯器で使用したガス・お湯の使用量とCO<sub>2</sub>排出量を見える化したガス給湯器リモコンです。



エネルックリモコン(参考写真)

### 節水水栓

従来品よりも水の使用量を抑えることができる、節水型のキッチン水栓です。

\*44・45階は形状が異なります。



節水水栓(参考写真)

### 保温浴槽

浴槽の周囲を断熱材でしっかりと覆うことで温度の低下を抑えます。追い焚きを少なくすることでCO<sub>2</sub>排出量もガス代も節約します。



保温浴槽(概念図)

### 節水トイレ

従来品よりも水の使用量を抑えることができる、節水型のトイレです。

\*タイプにより形状が異なります。パンフレットをご確認ください。



節水トイレ(参考写真)

### 屋上緑化(8階屋上)

地面だけでなく屋上にも緑化スペースを確保しました。ヒートアイランド現象の緩和などに効果が期待できます。

### 雨水利用システム

降り注いだ雨水を雨水槽に貯水。貯められた水は植栽への散水、1階～7階の店舗・オフィス用トイレなどに使われます。

### エコジョーズ

排出される熱も再利用する高効率ガス給湯器。ガスの使用量を軽減し、CO<sub>2</sub>排出量もガス代も削減します。



高効率TES熱源機



節水シャワーヘッド(参考写真)

### 節水シャワー

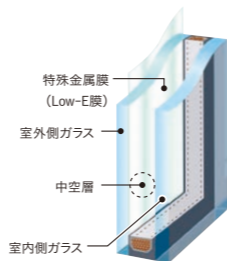
従来品よりも水の使用量を抑えることができる、節水型の浴室シャワーヘッドを採用しています。

\*42～45階は除く

### エコガラス

複層ガラスに特殊金属膜「Low-E膜」をコーティング。優れた遮熱・断熱効果で冷暖房効果を高め、エアコンの消費電力量も削減。さらに紫外線をカットし、結露の発生を抑えるなど、快適な室内空間を創出します。

\*一部を除く。  
\*設置箇所は図面集をご確認ください。



エコガラス概念図

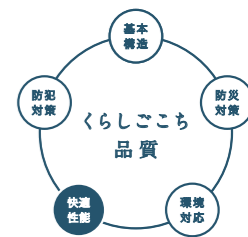
### 断熱等性能等級4 一次エネルギー消費量等級5

《設計住宅性能評価》の「断熱等性能等級」において、等級4を取得しています。冬暖かく、夏涼しい環境を保つために求められる性能です。断熱等性能等級4ではこのために断熱措置を講じる部分、窓などの開口面積に制限があります。

### 緑化率

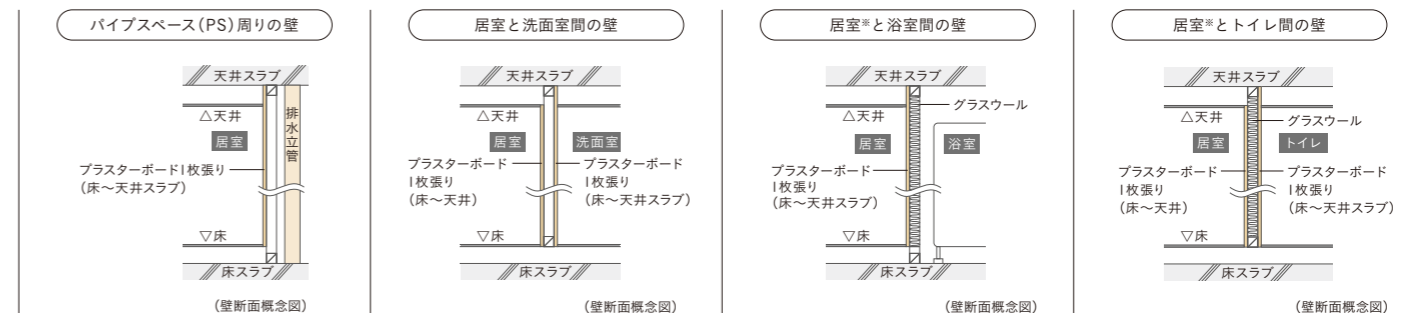
積極的な緑化計画により、緑化率25%(水平投影面積)以上を実現。居住者の方の憩いの空間になるとともに、ヒートアイランド現象の緩和などに効果が期待できます。

## 心地よく暮らせる居住性に配慮する



### 住戸内の遮音対策

水まわりやパイプスペースに面する壁は遮音に考慮した納まりとしています。



\*配管・配線の関係で、天井内・床下の壁部分に点検口、切欠きが生じる場合があります。 \*部位により多少仕様異なる場合があります。 ※LDKを除く居室

### 住戸間の遮音対策

戸境壁は隣り合う住戸からの音に対して十分配慮した、乾式戸境壁を採用しています。さらに戸境壁に直接コンセントボックスを設けないなど、建物設計の段階からきめ細かく遮音性能の向上に努めています。

### 重量床衝撃音対策

上階からドスンと響いてくる音に対しては、適正な床スラブの厚みを確保するとともに、メーカーカタログ表示で重量床衝撃音低減性能 $\Delta$ LH(II)-2等級の二重床材を採用しています。

### 軽量床衝撃音対策

スプーンを落とした時のコツンという音などに対しては、乾式遮音二重床で対応。居室にはメーカーカタログ表示で軽量床衝撃音低減性能 $\Delta$ LL(II)-3等級の二重床材を採用しています。

\*乾式遮音二重床の重量床衝撃音レベル低減性能( $\Delta$ LH(II)-2等級)および軽量床衝撃音レベル低減性能( $\Delta$ LL(II)-3等級)は、公的試験機関においてJISの定める実験方法によるデータに基づき、メーカーが表示した乾式遮音二重床の重量床衝撃音レベル低減および軽量床衝撃音レベル低減量を示したもので、竣工後の実際の住戸内での遮音性能を示すものではありません。 \*メーカーカタログ表示における標準型試験体の納まりと当マンションの納まりでは異なる部分があります。

#### 乾式二重床

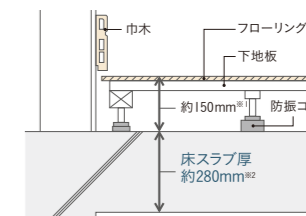
生活音がフローリングや下地板から床スラブに伝わりにくいよう防振ゴムの付いた支持脚で床のパネルを支えています。



二重床(参考写真)

\*メーカーにより仕様異なります

#### 断面イメージ図



※1 44・45階は約200mm

※2 部分的に厚さが異なります。

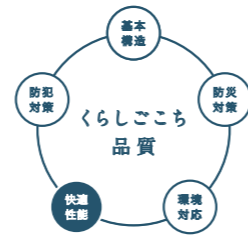
\*水廻りは除く

### 音の感じ方は個々人によって違うもの

マンションは床・壁・天井が他住戸とつながっているため、上下階やお隣の生活音が響いてきます。生活音の伝わりを完全に遮断することは現実的に困難で、過度な対策は住み心地にも大きな影響を及ぼしてしまいます。また、同じレベルの音であっても、生活する時間帯や個々人の育った環境などで、感じ方は異なります。当マンションは音を伝える工夫をしていますが、大切なのは音に対するマナー。お互いが配慮しながら生活することが、マンションライフのマナーだといえます。



## 心地よく暮らせる居住性に配慮する



### ユニバーサルデザイン お子様にもご高齢の方にも優しい

#### スロープ

外部から各住戸の玄関まで、極力段差がないよう設計。必要な場合はスロープを設け、高齢者やベビーカー、車いす利用者でもスムーズに移動できるよう配慮しています。



スロープ(参考写真)

#### 手摺付低床式ユニットバス

防水性、耐久性に優れ、またぎの高さを抑えた低床式のユニットバスを採用。浴室への段差も極力なくしているほか、壁に手摺りを設け、立ち座りの動作や姿勢の保持、移動がラクに行えるよう小さなお子様やご年配の方の安全な入浴に配慮しています。

\*タイプにより床段差があります。パンフレットをご確認ください。



低床式ユニットバス(参考写真)

### シックハウス対策 良好な空気環境で暮らす

#### シックハウス対策

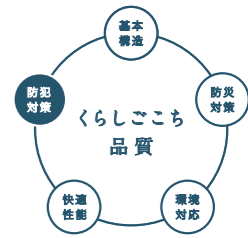
シックハウス症候群の主な原因とされる化学物質・ホルムアルデヒドは、接着剤や合板に含まれます。当マンションでは、壁紙と壁紙に使う接着剤、フローリングやキッチンキャビネット、クロゼットなどの素材となる合板とパーティクルボード等はF☆☆☆☆にするなど、人体にやさしい建材を採用。お客様にお引き渡す前に十分に換気するなど、品質管理面での対策を行っているほか、24時間微風量換気システムや換気口によって、常に換気ができるよう配慮しています。

\*低ホルムの部材を使用していますが、ホルムアルデヒドが全く発散されないわけではありません。できるだけ換気を行うようお願いします。

ホルムアルデヒドの 発散速度 (mg/m <sup>3</sup> h)	告示で定める建築材料	
	建築基準法 上の名称	対応する JIS・JAS規格
0.005以下	規制対象外建材	F☆☆☆☆
0.005を超え、 0.02以下	第三種ホルムアルデヒド 発散建築材料	F☆☆☆
0.02を超え、 0.12以下	第二種ホルムアルデヒド 発散建築材料	F☆☆
0.12を 超える	第一種ホルムアルデヒド 発散建築材料	—

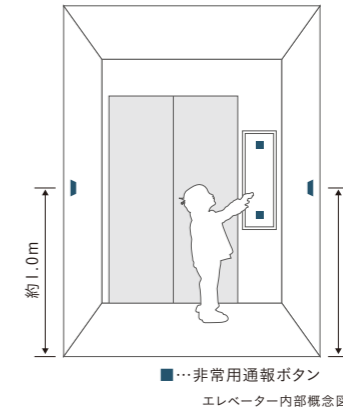
\*測定条件: 温度28℃、相対湿度50%、ホルムアルデヒド濃度100mg/m<sup>3</sup>(指針値)

## くらしを守る安全対策を講じる



### エレベーターの防犯対策

行き先ボタンの位置は、お子様が操作できるように設定。非常用通報ボタンは、お子様の手が届きやすいよう高さ約1.0mに設置。非常用通報ボタンが押されると防犯ブザーが鳴り、3分間各階に停止し、扉を開ける防犯運転を行います。



防犯モニター設置例(参考写真)

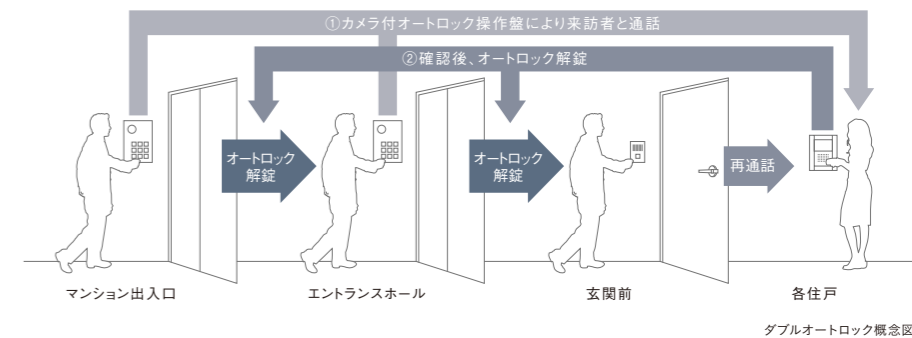
#### 防犯モニター

地下1階と1階エレベーターホールには、カゴ内の様子が分かるモニターを設置しています。

### ダブルオートロック

メインエントランスには、居住者や来訪者と共に入館する侵入手口を抑止する、ダブルオートロック方式のカメラ付オートロック操作盤を設置しています。

\*44、45階はエレベーターホールに集合玄関機があります。  
\*共用部相互利用によりサウス棟居住者がミッド棟低層用エレベーターを利用するため、低層階用エレベーターのみ、着床制限付きエレベーターが採用されており、サウス棟居住者は高層用エレベーターを使用できません。  
(サウス棟/パークタワー勝どきサウス、ミッド棟/パークタワー勝どきミッド)



ダブルオートロック概念図

### 防犯カメラ

共用部エントランスホールやエレベーターには防犯カメラを設置。防犯カメラの映像は防災センターのデジタルレコーダーに録画され、一定期間保存されます。



防犯カメラ(参考写真)

### 防犯玄関ドア

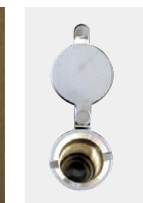
無理やり侵入する手口に対応するドアガード(耐震機能付)、サムターン回し手口に対抗する防犯サムターン、フタ付きドアアイを装備しています。



ドアガード(参考写真)



サムターン(参考写真)

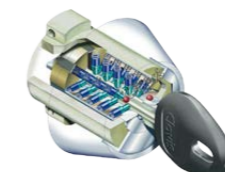


フタ付ドアアイ(参考写真)

### ディンプルシリンダー玄関錠

約5兆5,000億通りのキーパターンがあり、ピッキングなどの不正解錠が非常に難しく、キーナンバーの読み取りなどによる不正なキーの複製も防止します。また、差し込みやすいリバーシブルタイプです。

\*メーカーカタログより。



ディンプルシリンダー概念図

### 防犯センサー

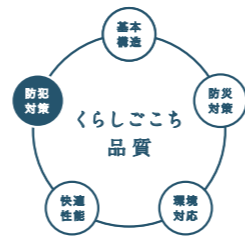
全住戸の玄関ドアと一部住戸の窓※に設置。防犯設定時に玄関ドアが開けられるとセンサーが反応し、カラーモニター付インターホン(住宅情報盤)が警報を発すると同時に警備会社および管理会社コールセンターへ自動通報されます。

\*※設置箇所は図面集をご確認ください。



玄関ドア防犯センサー(参考写真)

## くらしを守る安全対策を講じる



### カラーモニター付インターホン (住宅情報盤)

集合玄関機では来訪者を声と画像で確認でき、不審者の侵入や煩わしい勧誘を未然に抑止することができます。

#### ▶ 訪問者録画・録音機能付

不審者のチャイムを押しての在宅確認に備え、在宅時・留守時ともに、訪問者を録画できます。



カラーモニター付インターホン (参考写真)

### コールボタン

#### ▶ 非常コール・救急コール

住戸内で緊急事態が発生した際、コールボタンを押すと、管理会社コールセンターへ通報。状況確認の上、警備員が出勤し事態に対応します。

\*救急コールのみ、状況確認の上あらかじめ登録した緊急時の連絡先に連絡されます。



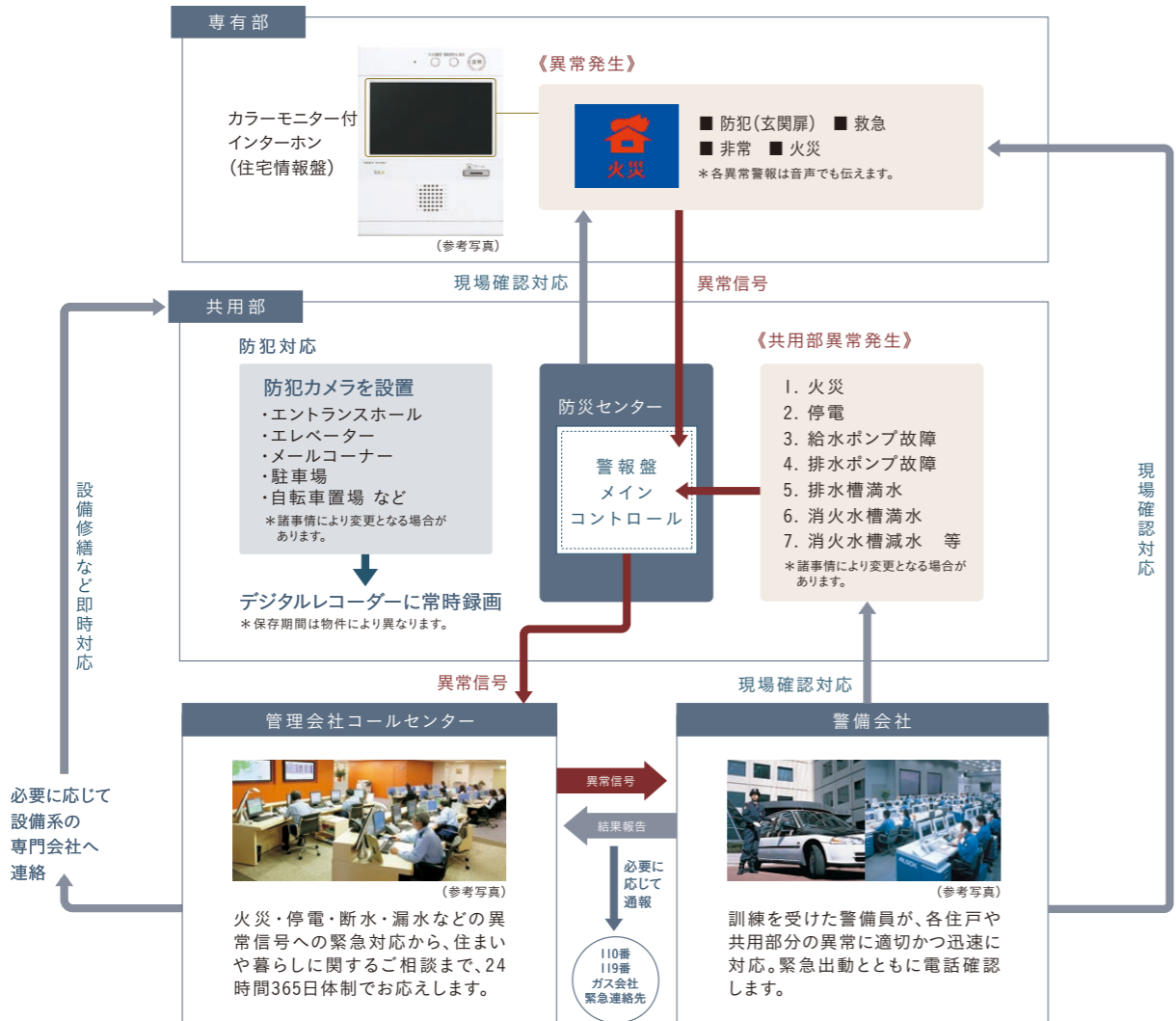
非常コール (参考写真)



救急コール (参考写真)

## セキュリティネットワーク

三井不動産レジデンシャルと管理会社、警備会社が運営する「セキュリティネットワーク」を導入しています。火災・ガス漏れ・防犯などの個別監視、共用部分の設備機器の異常警報など、管理会社コールセンターが24時間365日体制で一括管理。緊急対応を要する事態が発生した場合、管理会社は専門会社への出動依頼や現場急行の指示など、必要な措置を速やかに行い、警備会社は警報受信後直ちに状況に応じた適切な対応で皆様の安全を守ります。



## 管理業務

## 快適な暮らしのために良質のサービスを提供する

豊富な管理実績でニーズに応える

### 三井不動産レジデンシャルサービス

三井不動産レジデンシャルサービスは昭和48年の設立以来、数多くの管理実績のもと、豊富な経験とノウハウを駆使し、より快適で安全な暮らしと資産価値の向上に尽力するマンション総合管理体制を確立。お住まいの方々のよきパートナーとなって、時代を先取りしたシステムで、さまざまなニーズにお応えします。

※グループ全体の管理実績

カスタムメイドの管理をご提供する

### 三井不動産レジデンシャルサービスの総合管理業務

- ライフサポーター(管理員)業務**  
業務を通して日々お客様と接する、まさにマンション管理の『顔』。
- 事務管理業務**  
管理組合の資産を正確かつ明確に守り、管理組合の運営をバックアップ。
- 植栽管理業務**  
管理業務の一環として、きめ細やかな植栽管理サービスをご提供。
- 建物・設備管理業務**  
定期的な巡回点検で、建物や共用設備の状況を厳しくチェック。
- お客様センター**  
緊急対応から暮らしや住まいのご相談まで、快適な毎日をサポート。
- 清掃業務**  
清掃業務仕様書に基づく清掃で、マンションをいつも美しく快適に。
- 修繕計画**  
マンションの資産価値を守るために、ベストな計画を立案・実施。
- コミュニティサポート**  
コミュニティ形成や防災意識を促すイベント等のサポートサービスをご提供。
- 緊急対応業務**  
24時間365日体制で共用部・専有部を警報監視し、万一の際は緊急対応。

### 暮らしの安全と快適を見守り続けるお客様センター

#### ▶ 緊急対応業務

セキュリティシステムからの通報など、24時間365日稼働の遠隔管理により、事故やトラブルに対応。いち早く事態の収拾に当たります。



お客様センター (参考写真)

#### ▶ お問い合わせ・ご相談受付業務

マンション生活のさまざまな疑問やトラブル解決のための窓口となって、専門オペレーターが速やかに対応。夜間や休日も安心な、24時間365日体制です。



お客様センター (参考写真)

Residential Greeting  
居住者あいさつ会

マンションでの暮らしは共に住まう方々と、ゆるやかにつながることで充実したものになります。新しいマンションコミュニティの醸成を支援するために、三井不動産レジデンシャルではご入居開始後3ヵ月から6ヵ月を目途にレジデンシャルグリーティングを開催。コミュニティ醸成のスペシャリストの協力で、ご入居者の皆様同士が気軽な雰囲気の中で自己紹介や共通の関心事などを共有する機会を設けています。



参考写真